

福祉にいがた

Fukushi Niigata

2025
第869号

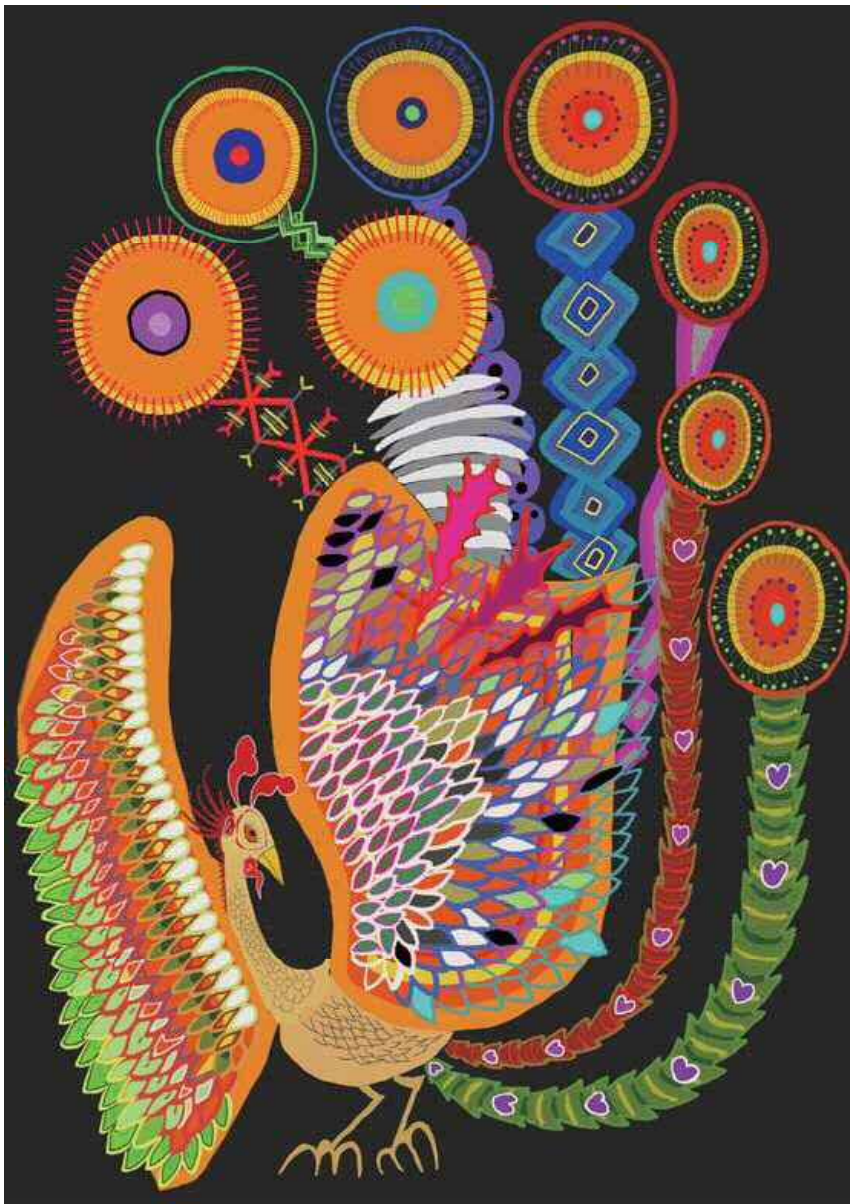
1月号

CONTENTS

巻頭特集

年頭のごあいさつ（2・3面）

- 「実家の茶の間・紫竹」河田瑋子さん回顧
- 新潟県社会福祉協議会長
- 新潟県共同募金会長
- 新潟県知事
- 精神障害当事者がピアカウンセラーに



絵 「朱雀」 作・久保田 学（聖籠町）
 〈作者一言〉変わった形の尻尾をした朱雀が飛んで来た



社会福祉
法人

新潟県社会福祉協議会

<https://www.fukushiniigata.or.jp>



年頭のごあいさつ



社会福祉法人
新潟県社会福祉協議会
会長
竹内 希六

令和7年の年頭に当たり、謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

皆様からは、日頃より社会福祉の推進に温かいご理解とご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年1月に発生した能登半島地震は、県内各地にも甚大な被害をもたらしました。被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

当協議会では、新潟市西区社協が設置する災害ボランティアセンターへの運営支援を行ったほか、3月からは、市町村社協の皆様からご理解、ご協力いただき、石川県の2市2町の災害ボランティアセンターへの運営支援を継続してまいりました。

また、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金の特例貸付につきましては、貸付金の債権管理とともに、借受人の自立に向けたフォローアップ支援を、市町村社協など関係する皆様

と連携し、進めているところです。

近年、少子高齢化の急速な進行や核家族化、一般の新型コロナウイルスや災害の影響などにより、社会的孤立や経済的困窮をはじめとする様々な福祉課題・生活課題が顕在化しており、地域福祉活動の拡充や強化が一層、大きな課題となっております。

当協議会といたしましても「共に生き共につくる福祉社会を目指して」の基本理念のもと、地域共生社会実現に向けた基盤構築の推進や、地域における権利擁護体制の推進などを活動指針に位置付け、皆様とともに地域の多様なニーズを受け止め、制度や分野の垣根を越えた地域福祉活動に取り組んでまいります。

私どもの取組への一層のご理解、ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。



社会福祉法人
新潟県共同募金会
会長

佐藤 明

謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。

昭和22年に国民たすけあい運動として始まった共同募金運動も78回目を迎え、昨年度までに寄せられた寄付金の累計は271億円余りとなりました。

これもひとえに皆様方からの温かいご支援とご協力の賜物であり、改めて心より感謝申し上げます。

令和6年度は募金の目標額を4億6991万円と定め、その達成に向けて懸命に取り組んでおり、皆様方からお寄せいただいた寄付金は県内の様々な民間福祉活動やボランティア活動、さらには災害時の被災地支援などに活用させていただきます。

特に、昨今の物価高騰などの影響で、経済的に困窮する人や孤立する人の増加・固定化が依然として大きな課題となっているとありますが、

ひとり親家庭などの困窮世帯への食料支援やメンタルケア活動への支援、子どもの居場所づくり支援などにも重点的に取り組んでまいります。

また、1月からは障害者支援や貧困対応、自殺防止運動など特定のテーマを掲げ、助成を受ける団体が積極的に募金活動に参加する「いがた・新テーマ募金」と、高齢者世帯などの除雪を支援する「あつたか雪募金」も始まりました。

「じぶんの町を良くするしくみ」としての赤い羽根共同募金運動が更に身近なものとなり、支援の輪が広がっていきますよう、工夫しながら取り組んでまいりたいと考えております。

今後とも一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



新潟県知事
花角英世

令和7年の年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年1月の能登半島地震では、県内でも大きな被害がありました。改めて、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。また、福祉団体の皆様には、被災地の支援活動にご協力をいただき、深く感謝いたします。県としても、国や市町村と連携し、迅速な復旧・復興、なりわい再建支援に取り組んできたところとです。近年、自然災害が激甚化・頻発化していることから、防災・減災対策を一層進め、県民の皆様の安全と安心を第一に取り組んでまいります。さて、県では、県の最上位計画である「新潟県総合計画」において「安全に安心して暮らせる、暮らしやすい新潟」「地域経済が元気で活力のある新潟」「県民一人一人が学び、成長し、活躍できる新潟」の3つの将来像を掲

げ、政策を展開してまいりました。

今年度は計画の最終年度に当たることから見直しを進めており、昨年10月には新たな総合計画の素案を公表しました。本県の最重要課題である人口減少問題に対応するため、将来の「人口定常化」に向けた展望を示すとともに、新たに「子育てに優しい社会の実現」「持続可能で暮らしやすい地域社会の構築」など、分野横断的な対応が必要な6つの重要課題を掲げたところとです。

今後、県民の皆様からのご意見や議会での議論を踏まえ、今年度中に成案を作成し「住んでよし、訪れてよしの新潟県」の実現に向け、本年も一層の取組を進めてまいります。引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様のますますのご発展とご健勝をお祈りし、新年のごあいさつといたします。

謹賀新年

- (一財)新潟県民生委員児童委員協議会
会長 本多 満理子
- (一財)新潟県老人クラブ連合会
会長 富沢 哲
- (二社)新潟県母子寡婦福祉連合会
会長 茂 又悦子
- (二社)新潟県手をつなぐ育成会
理事長 皆川 栄子
- (二社)新潟県老人福祉施設協議会
会長 山田 淳子
- 新潟県ホームヘルパー協議会
会長 岩崎 典子
- 新潟県保育連盟
理事長 坂上 隆行
- 新潟県私立保育園・認定こども園連盟
会長 伊東 一男
- 新潟県保育士会
会長 山田 文子
- 新潟県社会福祉法人経営者協議会
会長 平澤 正人
- (公社)新潟県社会福祉士会
会長 渡辺 陽一
- (公社)新潟県介護福祉士会
会長 大井 秀行
- 新潟県内社協職員連絡会
会長 須藤 信宏
- 新潟県社会就労センター連絡協議会
会長 寺口 能弘
- (二社)新潟県介護支援専門員協会
会長 池内 明
- (新潟ユニゾンプラザ入居福祉団体)



ピアカウンセラー起業3ヵ月



ピアカウンセラー
平岡 良亮さん
「ピア・ザ・カルチャー」代表

統合失調症当事者である平岡良亮さん(三条市)は昨秋、勤務していた三条市役所を退職。精神障害者らの悩みを聞き、同じ立場の仲間(ピア)として寄り添おうと個人事業「ピア・ザ・カルチャー」を起こした。通信アプリ「LINE」のチャット通話機能で相談に応じる一方、講演も引き受け、自分の体験を披歴しながら精神障害の当事者や家族を励ます。「ピアカウンセラーはあまり知られていないため、試行錯誤の連続です」と笑う。発病、その後も苦悩の日々を重ねた末の笑顔だ。

同じ立場で寄り添う 理想求め市役所退職

「う、体が、体が、動かない……」
近隣の町の高校に入学して間もない朝。1人、布団の中でうなり声を上げ、もがいていた。

「目が覚めているのに起

き上がれなかった。気のせいだとも思い、親にも相談しなかった。しかし、起き出せない状態は、その後も毎日のように続いた。「このまま死んでしまうのか」。不安や恐怖心も膨

らんでいった。

初めて、はつきり感じた変調だった。自分に何が起きたのか知る由もなく、高校1年の秋を迎えた。

中学時代にも慣れ親しんだ、大好きな卓球の部活中だった。ラケットを握っていて突然、涙があふれた。自分でも驚いた。

中学時代、何度も通った保健室の先生に電話した。「心と体が疲れているのかも」と、医療機関の受診を勧められた。しかし、自身に偏見があつてか、精神科ではなく内科に向かった。

この頃から幻覚の症状である幻聴や幻視に苦しみ始めた。「『バカ、死ぬ、消えろ』とリアルな声で罵倒され続けた。幻視では、影が刃物を持って近づいて来て……怖かった」

針の先で腕をひっかくなどの自傷も始まった。手首を切ったことも。今も残る傷もある。

精神状態が不安定で学校を休むことも多く、授業にも集中できなかった。そんな姿を心無いクラスメートは嘲笑した。心を痛めた。

高校3年次には精神科の医師の診察を受診。高校卒業後に進学した、新潟市北区の私立大学1年次、統合失調症の診断を受けた。

大学時代も苦戦した。当初、大学近くのアパートに住んだが、病状から単身生活が難しくなり、三条の実家から車で通学した。友との交流にもなじめず「人と関わるのが苦手」と感じた。留年し、5年間在学した後には中退した。

統合失調症

高校時代、心身に変調

市で福祉課へ「相談」担う

その後、福祉関係の法人に勤めたほか、アルバイトもした。20代半ばには統合失調症により精神障害2級と認定された。

2021年の秋、三条市役所の福祉課障がい支援係で実習として働いた。翌春からは障害者枠の採用で1年更新の職員となった。「福祉課では良くしても



摂食障害の自助グループを前に平岡良亮さんが講演＝新潟市

らい、精神障害の人の相談に応じるピアカウンセリングを任せられました」。対面のほか、電話やパソコンのチャットでも対応した。一方、市での実習前から心理関係を通信教育で学んで民間資格を取得。その後はピアカウンセラーについても学び、資格を得た。しかし、昨年、体調を崩し「働くのは難しいかも」と考えた。併せて「集団の

「ピア」の力と大切さ確信 起業決断「当事者だから」

中で人と関わるのは苦手」「自分は市役所で働いて幸せなのか」との思いが頭の中を巡った。

「仕事を通じ、ピアカウンセリングの大切さを痛感しました。その一方で、市外の人からの相談には、市の業務の性質上、対応できず、もどかしかった。それなら、独立してピアカウンセリングを業務にしようと思いました」

両親の大反対を押し切り、市役所を退職。「ピア・ザ・カルチャー」の個人事業主として昨年10月、税務署に届け出た。開業から3カ月。既に自身でホームページを開設、相談に応じることをSNSでも発信している。出か

けない日は、自宅の事務所で朝から夕方まで、スーツを着てパソコンに向かう。電話相談は夜にかかってくるものが多く、夕食後もしばらくは待機する。

「少しずつ、相談の電話やチャットが来るようになりました。そのほか、新潟市の摂食障害の自助グループなどに招かれるなど、講演もこなしています」

講演では自身の体験を紹介し「自分を大切に生きよう」「もっと自分を褒めよう」と伝え、考えて感じて気付いてもらうことを目指す。

「本業は手探り状態。ピアカウンセリングを事業化

している先例が見当たらずお手本がない」。しかし、仲間同士で支えあう大切さ、その力は確信している。

「ピアカウンセリングを知ってもらい、仕事として認知されたい。そのために、福祉関係の集まりなどに出かけては名刺やチラシを配っています」

通院と服薬を続ける傍ら、業務を軌道に乗せようと、試行錯誤の毎日だ。

「自分の経験を生かし、精神障害の当事者や家族に寄り添いたい。自分がやりたかった仕事だから、充実感でいっぱい」。言葉に力がみなぎっていた。

「ピア・ザ・カルチャー」

- ▽平岡良亮さん所有資格 ピアカウンセラー、うつ病アドバイザー、上級心理カウンセラー、ケアストレスカウンセラー
- ▽チャット相談料金 1往復1000円
- ▽通話相談料金 6分500円、以降10分ごとにプラス1000円

▽平岡さん電話
090(50003)1982



▽ホームページ
こちらから

▽eメール
ryosukehiraoka0829@gmail.com

▽著書
「生きてるで証」統合失調症からカウンセラーへ「新潟日報メディアネット」11000円(税別)



新潟ユニゾンプラザ2階の「図書情報ルーム」(通称・ユニゾンの図書館)が薦める「今月の本」はこちら。

「地域の茶の間」の活動 柔らかな絵本で後世に

絵本の「未来につなごう 地域の茶の間」(博進堂刊)は昨年10月に10年間の活動期間を満了して終了した「実家の茶の間・紫竹」(新潟市東区)の日々を次代に伝えようと発刊された。



絵本「未来につなごう 地域の茶の間」

見開きページの左上に描かれた時計が午前9時を示す。「茶

の間・紫竹」の実施日(月曜・水曜の週2回)の朝、参加者が雪かきやごみ出しなどをして、ほかの参加者を迎える様子を柔らかなタッチの絵で表す。

その後、時間ごとに「茶の間」での一日を紹介。それぞれに「プライベートをきき出さない」「できる人が助け合い、運営に参加する」「助けて!」と言える自分をつくろう」など、守ってほしいルールや目標などを書き出している。

終盤ページでは、茶の間の実際のスナップ写真を掲載。「茶の間」創始者として、全国に知られる河田珪子さん(新潟市中央区)が寄せた一文も巻末に掲載している。

絵本をプロデュースしたのは博進堂の元社長で、まちづくりの活動や提言で知られ、昨年7月、発刊を翌月に控えて亡くなった清水義晴さん。清水さんは巻頭文に「活動の実績を未来につなぐために絵本を出版し、後世の人たちに受け継いでもらいたい」(一部略)と記した。新潟の誰からも読んでほしい「郷土の一冊」だろう。



ふと、指先を見ると「あつ、ささくれ」。

乾燥する季節はいつもこれです。指先の手入れはろくにしていない私も、かつてはネイルサロンに行くなど、美意識高めな頃もありました。ネイルアートはとても美しい仕

指先に灯る幸せ

上がりで、気持ちが高揚したうえ、店員さんのおしゃべりも楽しみでした。

指先に小さな幸せが灯ったような、そんなネイルの魅力は今や、福祉施設でもケアの一環として取り入れられているようです。訪問美容としてネイリストが訪れ、高齢者や障害者のネイルを美しく仕上

潤いの時間や体験大切

げます。おしゃべり目的だけでなく、ふれあいや会話を通じて癒やし、ストレス発散、認知症の進行を遅らせるなどの効果が期待されます。

実際の様子を映像で見ました。うつむいていた人の表情がほぐれ、次第に自身のことを話すようになり、最後には笑顔を見せていたのが印象的でした。心を高揚させた自分の体験もあって、その人の心の動きが共感できました。

問題なく生活していても、気持ちの豊かさが伴わないと「自分らしく生きている」実感が持ちにくいのではないのでしょうか。



年齢や体調を理由に、様々なことに関心が薄れていたり、諦めていたりする人もいるかもしれません。でも、ネイルに限らず、潤いある時間や体験を積極的に作っていくことは、人として大切な営みでもあると思います。

(実央)

新潟県認知症コールセンター

令和6年度上半期 相談状況

人数件数やや減少 前年同期比

新潟県認知症コールセンターで受けた令和6年度4月～9月末の上半期の相談は211人から寄せられました。1件の相談には多岐にわたる内容が含まれることから、延べ618件の相談内容に対応しました。令和5年度の同時期の相談人数と内容の件数は231人、延べ649件だったため、人数・内容の件数ともやや減少しました。

〈表1〉

主な相談内容	【相談分類別】
<p>■ 介護・介助 (206件：33.2%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護疲れから本人に優しく接することができない ・物忘れを注意すると激怒される ・夜間も目が離せず、疲弊している ・物忘れや判断能力の低下、怒りっぽい症状がある ・認知症状が進行し家族の顔も分からない ・尿失禁があるのに衣類を交換してくれない ・妄想のような言動があり、どう対応したらよいか ・財布やキャッシュカードを盗まれたと騒ぐ ・自宅が分からなくなりたどり着けない時がある <p>■ 保健・医療 (145件：23.5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関の受診を拒む ・かかりつけ医がいなかったため医療機関を知りたい ・認知症検査について（実施機関、内容等） ・認知症新薬について（対象者、服薬、副作用等） ・若年性認知症を抱える家族の本人への対応 ・軽度認知症と診断され今後が心配 	<p>■ 家族・家庭 (126件：20.4%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠方で暮らす親を近くに呼び寄せたい ・親の介護方針が兄弟間で異なる ・幻視・幻聴からの近隣トラブルに ・子どもに相談しても話を聞いてもらえない ・生活に力がなくなり生きているのがつらい <p>■ 福祉サービス (98件：15.9%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用を検討している。相談先はどこか ・お風呂に入らないので、デイサービスを利用させたい ・施設の利用を拒む ・ケアマネジャーとの関係が悪い <p>■ 権利擁護 (24件：3.9%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症と診断を受けた本人の財産管理 ・お金を他人に管理されるのを拒む <p>■ 経済・生活 (19件：3.1%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ商品を何度も購入する ・運転免許証の返納

相談者の内訳は女性73%、男性27%、相談方法は96%が電話です。相談は、子どもからによるものが一番多く57%です。次いで配偶者から16%、本人からは13%と

なっています。主な相談をまとめました。「表1」をご覧ください。当センターは、福祉の資格者や介護の経験者が相談員を担い、認知症の方やその家族が抱える様々な心

配事や悩み事を電話や面談でお受けしています。認知症のひとと家族の会がまとめた「早期発見のめやす」は表2を参考に、思い当たることがあればお気軽にご相談ください。

〈表2〉

「認知症」早期発見の目安	〈出典／公益社団法人認知症のひとと家族の会〉
<p>日常の暮らしの中で、認知症ではないかと思われる言動を、「家族の会」の会員の経験からまとめたものです。医学的な診断基準ではありませんが、暮らしの中での目安として参考にしてください。</p>	
<p>● 物の忘れがひどい</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 電話を今切ったばかりなのに、相手の名前を忘れる □ 2. 同じことを何度も言う・問う・する □ 3. しまい忘れ置き忘れが増え、いつも探し物をしている □ 4. 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う <p>● 判断・理解力が衰える</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 5. 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった □ 6. 新しい事が覚えられない □ 7. 話のつじつまが合わない □ 8. テレビ番組の内容が理解できなくなった <p>● 時間・場所がわからない</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 9. 約束の日時や場所を間違えるようになった □ 10. 慣れた道でも迷うことがある 	<p>● 人柄が変わる</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 11. ささいなことで怒りっぽくなった □ 12. 周りへの気遣いがなくなり頑固になった □ 13. 自分の失敗を人のせいにする □ 14. 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた <p>● 不安感が強い</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 15. 1人になると怖がったり寂しがったりする □ 16. 外出時、持ち物を何度も確かめる □ 17. 「頭が変になった」と本人が訴える <p>● 意欲がなくなる</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 18. 下着を替えず、身だしなみを構わなくなった □ 19. 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった □ 20. ふさぎ込んで何をしてもおっくうがり、いやがる
<p>《いくつか思い当たることがあれば、一応、専門家に相談してみるのがよいでしょう》</p>	

認知症のこと、ひとりで悩んでいませんか？ ～お気軽にご相談ください～

新潟県認知症
コールセンター

相談電話

025-281-2783

にほんなやみ

【所在地】〒950-8575 新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階(来所相談も可)

【相談時間】月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く) 9:00～17:00

令和6年度

スケールメリットを活かした割安な保険料で
充実補償をご提供します!



ホームページでも内容を紹介しています
<https://www.fukushihoken.co.jp>



社会福祉施設総合損害補償

しせつの損害補償

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償

(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、サイバー保険、
動産総合保険、費用・利益保険)

① 基本補償(賠償・見舞費用)

保険期間1年

▶保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故に対応	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等の各種費用	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

▶年額保険料(掛金)

定員	基本補償(A型)
1~50名	35,000~61,460円
51~100名	68,270~97,000円
以降1名~10名増ごと	1,500円

基本補償(A型) 保険料 + 【見舞費用加算】
定員1名あたり
入所：1,300円
通所：1,390円

- ② 個人情報漏えい対応補償 ③ 施設の什器・備品損害補償

- オプション1 ● 訪問・相談等サービス補償
- オプション2 ● 医務室の医療事故補償
- オプション3 ● 看護職の賠償責任補償
- オプション4 ● クレーム対応サポート補償

プラン2 施設利用者の補償

(普通傷害保険)

- 入所型施設利用者の傷害事故補償
- 通所型施設利用者の傷害事故補償
- 施設送迎車搭乗中の傷害事故補償



プラン3 職員等の補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険、雇用慣行賠償責任保険)

- 職員の労災上乗せ補償 ③ 役員・職員の感染症罹患事故補償
- 使用者賠償責任補償 ④ 雇用慣行賠償補償
- 役員・職員の傷害事故補償



プラン4 法人役員等の補償

(役員賠償責任保険)

社会福祉法人役員等の賠償責任補償

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者 ▶ 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
〈保険会社〉 TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 ▶ 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667
受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ23-11446より抜粋)



赤い羽根情報

テーマ型募金 今年も善意を

応援したい福祉団体に募金する「にいがた・新テーマ型募金」が今年も1月1日から3月31日まで行われています。

この募金は、福祉に関わる団体が力を入れるテーマと目標額を示して寄付を募集します。そのテーマに賛同した個人や企業が県共同募金会を通じて寄付する仕組みです。
今回は21団体が参加、計17

団体名	本部所在地	活動テーマ	目標額
OHANA	新潟市	居場所づくり、子ども食堂運営、相談支援事業など	2,000,000
新潟いのちの電話	新潟市	いのちの電話カードを中学生に配布など	500,000
フードバンクにいがた	新潟市	フードバンク事業(フードドライブ・寄贈、提供食料品の管理・運搬)	1,500,000
教員サポートSmileういんず	新潟市	支援を必要とする子どもたちのクラスサポート	900,000
新潟トラウマ治療協会	新潟市	トラウマ治療に関する講演会・研修会・普及活動	2,000,000
いきいき健康家族オアシス	新潟市	子ども食堂やフリースペースの運営など居場所づくり事業	300,000
健康サポートプラス	新潟市	社会的課題を抱える子どもの社会体験をサポートする活動	420,000
長岡医療と福祉の里ボランティア連合会	長岡市	有償ボランティアの研修・人材確保	300,000
上越地区手をつなぐ育成会	上越市	障害児者の保護者及び関係者への将来へ向けての情報提供支援及び相談支援事業	100,000
かみえちご山里ファン倶楽部	上越市	子どもの居場所づくり、放課後教室事業など	730,000
はっぴーはーと	上越市	赤ちゃんの一時預かり事業・ワークショップ・情報発信事業など	500,000
ズバツと解決上越	上越市	お困り事解決事業	500,000
新潟県フードバンク連絡協議会	三条市	ひとり親世帯への食料援助事業など	2,000,000
フードバンクしばた	新発田市	こどもの貧困世帯・産前産後ケア、病児保育など包括的支援事業	3,000,000
NPOかも小町	加茂市	認知症カフェの運営、フレイル予防の支援事業など	1,000,000
フォルトネット	十日町市	引きこもり当事者の相談事業など	200,000
フードバンクみつげ	見附市	ひとり親家庭などへの食支援	500,000
みんなの実家グリーンホームふたば	見附市	障害者支援施設の整備・運営	500,000
フードバンクさんぼく	村上市	困窮世帯包括的ケアの場としての居場所づくりと体験活動支援	400,000
胎内市フードバンク協議会	胎内市	ひとり親世帯への食料支援、福祉的アウトリーチ活動など	300,000
ミンナのチカラ	胎内市	引きこもり当事者とその家族の居場所づくりなど	300,000
		計21団体	17,950,000

令和6年度 にいがた・新テーマ型募金 参加団体と募金目標額



表彰式の後、記念撮影する「たすけあい作文コンクール」入賞者たち

県知事賞に 秋元さん(小6年)

新潟県共同募金会が主催する「第72回たすけあい作文コンクール」の表彰式が11月16日、新潟市中央区の日本赤十字社新潟県支部で行われました。

小中生たすけあい作文

95万円の目標を掲げています。表参照。皆様のご協力をよろしくお願ひします。

なお、団体の活動内容の詳細等については新潟県共同募金会ホームページでも紹介しています。

令和6年度は県内の小・中学校、計11校から88点の応募があり、入賞6点と佳作20点が選ばれました。

式では、受賞者を代表して、長岡市の阪之上小学校6年生秋元孝亮さんが「一人は気付かないうちにいろいろな人に支えられていることにも気付きました。僕自身もまわりを支えていけるようにしたい」とあいさつしました。

なお、入賞作文は新潟県共同募金会ホームページからご覧いただけます。
入賞者は次の通り。

- 県知事賞 秋元孝亮さん(長岡市立阪之上小学校6年)▽県教育委員会教育長賞 菱川諒さん(糸魚川市立能生中学校2年)▽新潟日報社長賞 猪又千悠さん(糸魚川市立糸魚川中学校1年)▽NHK新潟放送局長賞 忍足菜々海さん(新潟県立直江津中等教育学校2年)▽県社会福祉協議会長賞 西村莉結さん(加茂市立須田小学校5年)▽県共同募金会長賞 関矢一花さん(柏崎市立田尻小学校6年)

居場所の息吹 各地で脈々と



「地域の茶の間」創始者
河田 瑋子さん
(新潟市中央区)

新潟市と任意団体「実家の茶の間」が協働事業として10年間取り組んだ市地域包括ケア推進モデルハウス「実家の茶の間・紫竹」(新潟市東区紫竹、以下「茶の間・紫竹」)が昨年10月30日で終了しました。

「茶の間・紫竹」は空き家を活用し、月曜と水曜の週2回、居場所としてオープンする活動でした。その日の参加費と昼食費を払った参加者は「体操と昼食」以外にプログラムはなくて、「誰がいつ来ても帰っても、

さまざまなたちの居場所「地域の茶の間」を全国に先駆けて創設し「新潟発の茶の間活動」を発信してきた河田瑋子さん。新潟市中央区。新潟市地域包括ケア推進モデルハウスとして、市との協働で運営してきた「実家の茶の間・紫竹」(東区)が「10年間の約束」の期間満了により、昨年10月30日、幕を閉じました。しかし「いつでも誰でもお気軽に」の居場所の息吹は全国に広がっています。地域でのつながりが希薄になる一方で、駆け足で進む高齢時代に望ましい地域社会とは。その在り方を示し続けた河田さんに活動を振り返ってもらいました。

「話が見たい」「行く所欲しい」
いつでも誰でもお気軽に



参加者が詰め掛けた、終幕直前の「実家の茶の間・紫竹」

「誰がいつ来ても帰っても、何をしてもしなくても良い」の方針の下、自由に過ごしてもらいました。約束事は「上座下座を作らない」「当番は台所以外

エプロンをしない」「初めて来た人に『あの人だれ!』という目をしない」「いい人の話をしない」「聞き出さない」などです。これらを紙に書いて張り出し、守ってもらいました。「行く所が欲しい」、または、誰かと「会いたい」「話したい」「一緒に食事したい」「一緒に食事をしたい」。参加者はそんな思いで「茶の間・紫竹」を訪れていました。高齢者だけでなく、若者など参加世代も広がっていきました。この10年間で私自身が一番の目標にしたのは「茶の間・紫竹」がなくなっても、参加者同士がこれまでに築いた関係を生かし、お互いに助け合い、気遣い合える間柄を続けていけることでした。そして、歩いて行ける範囲に新たな「茶の間」ができることも望みました。

さらに、大きな到達点に掲げたのは「自己決定すること」でした。

新潟発「地域の茶の間」全国へ

県外からも視察相次ぐ

地元参加者らが新たに開設

多くの高齢者を見てきて「若い人たちの迷惑にならないように」と思ってたか、自分の意見や希望をしまい込み、縮こまったように生きていく人が少なくないのではと感じました。

中でも、女性は嫁いでからも年齢を重ねてからも



終幕の前に参加者から花束を贈られた河田瑛子さん(中央)

自分のことを自分で決めてきたことがどれだけあったでしょうか？ 自己決定は「自分の人生も他の人の人生も大切にすることに通ずる」と考えています。

でも、いきなり「自己決定してください」と言われても困惑するだけでしょう



空き家を活用した「実家の茶の間・紫竹」の外観

う。だから、そのための練習の場を仕掛けました。

最終年の10月は実施日の9回すべてを「最後の日」と位置付け、全参加者が自身の今後を考える日々とし、そこに「自己決定の練習」も入れました。

最終月に取り組んだ練習は「自己紹介タイム」でした。まず、自分のことを話してもらいます。自分の気持ちに向き合うことが欠かせないからです。

「茶の間・紫竹」を訪れる人は、参加者だけでなく、県内外から絶えない視察者、研修・実習生など、誰しもがフルネームを名乗ってから自己紹介しました。

「かわだ・けいこ」新潟田市生まれ、新潟市中央区在住。社会福祉主事任用資格、介護福祉士。肩書として「支え合いしくみづくりアドバイザー」を名乗る。

夫の転勤先の大阪で老人施設に勤務、義父母の介護や自身の病氣治療もあって帰郷。平成3(1991)年に新潟市で住民参加型の福祉サービス「ま

サランラップの芯にアルミ箔を巻き付け、造花を差し

込んだマイク

を手に、自分について言葉にしました。併せて、他人の言葉も聞くことも大切にしました。

マイクを回

して自己紹介しながら、自分の気持ちや考え、望みなどに向き合いました。これは、百人百様の考え方や生き方などを理解し合う場

お互いに「助けて」言い 安心生活できる地域へ

河田さん願う

解し合う場

「ごころヘルプ」を設立、自らがサービス利用第1号に。約30年前に事務所の一角などで居場所活動を始めた後に「地域の茶の間の実家」設立。その解散後の平成26(2014)年10月、任意団体「実家の茶の間」が新潟市と協働運営協定を交わし「実家の茶の間・紫竹」を開始。令和6年10月に10年の期間満了により終了。

もなかったのではと思います。こうした活動のおかげか、地域コミュニティ協議会メンバーや「茶の間」参加者が地元で「地域の茶の間」をスタートさせました。茶の間活動は県内各地だけでなく、全国にも伝わり、私もうれしい限りです。最後に、赤ちゃんからお年寄りまで、障がいのある人もない人も、認知症の人でも外国人も、誰もが当たり前と一緒にいられる、新潟発の「地域の茶の間」が今後も広がってほしい。そして、手助けが必要になった時に「助けて！」とお互いに言い合えれば、安心して暮らせる地域になると、信じてやみません。

※ 6 ページに関連記事「絵本『未来につなごう 地域の茶の間』」

特殊詐欺など撃退 「出前講座」いかが

自治会などに呼び掛け

NPO法人「新潟県消費者協会」(山崎和美会長・新潟市中央区)は、自治会

や地域の茶の間、老人クラブ、各種サークルにボランティア講師を派遣し、悪質商法や特殊詐欺等の被害に

遭わないための出前講座を実施しています。

講座の講師を務めるのは「新潟県消費生活サポーター」です。毎年開催する消費生活サポーター養成講座を受講し、県に登録した



新潟県消費生活サポーターによる出前講座

ボランティアで、県内に約240人います。

講座では、悪質商法等の手口や対処法を寸劇やクイズ等でわかりやすく伝えるほか、困ったときの相談窓口も紹介します。県内各地で年間約70講座が開催されており、講師派遣の費用は原則として不要です(企業等の社内研修等の場

合は有料)。

消費生活サポーターは、出前講座以外にも、年金支給日に合わせた高齢者被害防止活動等での啓発チラシの配布や、近隣住民等身近な方への被害防止の呼びかけ活動等を行うほか、フォローアップ講座や消費生活サポーター同士の交流会等でスキルアップをはかっています。

消費生活サポーターの活動に関心のある方、出前講座を申し込みたい方は、新潟県消費者協会(電話025(281)5558)までお問い合わせください。

新潟県消費者協会は、消費者が持続可能な社会の形成に積極的に参画する「消費者市民社会」を目指しています。「消費者被害防止」はその活動の一環で、新潟県からの委託を受けてこの事業を行っています。



※右側はNPO法人「新潟県消費者協会」の広告です。

パレット新潟店営業日

2025年		1月						
日	月	火	水	木	金	土	日	
			1	2	3	4		
5	6	7	8	9	10	11		
12	13	14	15	16	17	18		
19	20	21	22	23	24	25		
26	27	28	29	30	31			

2025年		2月						
日	月	火	水	木	金	土	日	
						1		
2	3	4	5	6	7	8		
9	10	11	12	13	14	15		
16	17	18	19	20	21	22		
23	24	25	26	27	28			

営業時間 11:30~16:30 □…は休業日



福祉の店
パレット情報

編集後記

自転車通勤の楽しみが増えた。「小さな友達」ができたのだ。晩秋のある朝、勤め先近くで信号待ちをしていると、歩いて登園の途中らしき男の子がドングリを拾い集めていた。あまりにうれしそうに顔を上げて「すごいね、全部拾ったの?」と声を掛けた。その子はうなずき、そばにいたお母さんが「ドングリが大好きなんですよ」。

それ以来、会えば「おはよう」とあいさつ、その子は笑顔を返す。荒天のせい、会えない日も続いた。出勤が遅くなった朝は息子を園に送り届けた後のお母さんとはばったり、すれ違う際に「会いたかったですよ」。

さまざまなお出合いに不思議な縁を感じる。後半を過ぎて終盤に差し掛かる人生、これから先にどれだけの縁を結べるか分からない。それだけに一つ一つを大切に、出会えた感謝を忘れず生きていきたい。新年の初め、心新たに思う。(佐)

この機関誌は、赤い羽根共同募金の助成を受け発行しています。

発行所/社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会
新潟市中央区上2-2-2ユニゾンプラザ
☎ 025-281-5584
発行人/関原 貢
定 価/5 円 (会員の購読料は会費に含む)

福祉にいがた
令和7年1月1日発行(毎月1日発行)
印刷/島津印刷株